

PRIMERGY RX200 S3 使用上の注意

このたびは、弊社の PRIMERGY RX200 S3 をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本サーバをご使用になる上での注意および追記事項がございますので、本書をよくお読みの上、ご使用願います。

2007 年 12 月
富士通株式会社

1 メインボードの保守交換後の動作について.....	2
1.1 Integrated Mirroring SAS について.....	2
1.1.1 初期化中の留意事項について.....	2
1.1.2 初期化の完了時間の目安について.....	3
1.2 リモートマネジメントコントローラ (iRMC) の設定について.....	3
2 USB DVD/CD-ROM ドライブ (FMV-NCB52) から Windows 2000 Server SP4 適応済 CD-ROM を使って OS をインストールする場合の留意点.....	3
■留意点.....	3
■ServerStart を使用した OS インストール手順.....	4
■手動での OS インストール手順.....	4
3 「PRIMERGY RX200 S3 ユーザーズガイド : B7FH-4351-01-00」 についての更新.....	5
基本ドライブケース変換機構 (2.5 インチ内蔵ハードディスクユニット)	5
内蔵ハードディスクユニットの取り付け・取り外し手順.....	5
■ 内蔵ハードディスクユニットの取り付け手順.....	5
● 標準ストレージベイ (3.5 インチ) の場合	5
● ドライブケース変換機構を適用した場合 (2.5 インチ)	6
■ 内蔵ハードディスクユニットの取り外し手順.....	7
● 標準ストレージベイ (3.5 インチ) の場合	7
● ドライブケース変換機構を適用した場合 (2.5 インチ)	8
8 章「8.2.8 Advanced System Configuration サブメニュー」 (関連ページ 284)	8
A 本体仕様 (関連ページ 340-342)	9
● エネルギー消費効率.....	10
● サポート OS	10
本サーバで使用できる CPU オプション.....	11
本サーバで使用できるメモリオプション.....	11
本サーバで使用できるハードディスクユニットオプション.....	12
4 最新の環境設定シートについて.....	12
5 オプション製品の増設についての補足事項.....	12
6 リモートマネジメントコントローラ (iRMC) のファームウェアバージョンについて.....	12
7 リモートマネジメントコントローラ (iRMC) の操作マニュアルについて	13
8 リモートマネジメントコントローラ (iRMC) V1.66A の未サポート事項について.....	13
9 最新版のダウンロードについて (ご参考)	14

1 メインボードの保守交換後の動作について

1.1 Integrated Mirroring SAS について

本サーバにオンボードで搭載されている Integrated Mirroring SAS 機能(RAID1)をご使用になっている際に、メインボードに何らかの不具合が発生しメインボード交換を行いますと、メインボード上に保存されているハードディスクドライブの整合性に関する情報が失われるために、再度データ整合性をあわせる目的でアレイドコントローラのロジカルドライブの初期化処理が必要になります。

これは過去にライトデータが正しくハードディスクに書かれたかを記録するデータ整合性の情報を、メインボード上に保存しているためです。本データはメインボード上の不揮発性 RAM(NVRAM)に保存されております。そのデータを保守ツールにより交換直前に退避し、交換後に復元することが可能です。データが正常に退避・復元ができた場合には初期化は起こりません。

しかし、装置が起動しない場合など、メインボードの不具合の内容によっては、システム上でツールを起動できず、情報を退避できない場合がございます。その場合には再度データ整合性をあわせる目的で初期化処理を行う必要があります。また、NVRAM 情報が退避・復元できた場合でも、データ整合性を確認できなかった場合には、同様に初期化処理を行う必要があります。

ここで行われるロジカルドライブの初期化処理とは、2 台のハードディスク間でバックグラウンドでデータのコピーを行いデータの整合性をあわせる動作であり、リビルド動作と同一です。

1.1.1 初期化中の留意事項について

Integrated Mirroring SAS のロジカルドライブの初期化はバックグラウンド初期化処理にて行われますので、初期化中もハードディスクヘッドドライブのアクセスは通常通り行えますが、初期化が完了したロジカルドライブと比較すると充分な I/O 処理性能が得られない場合があります。

最大で約 54%の性能低下となる場合があります。

OS 稼動中に初期化対象ハードディスクドライブの前面ハードディスク故障ランプがリビルド時と同様に点滅します。

また、ServerView がインストールされている場合には本体の前面および後面保守ランプが点灯します。初期化完了後、これらのランプは自動で消灯いたします。この場合、前面保守ランプのみでなく、ServerView コンソール等により、各種装置の状態確認を実施してください。

初期化完了前にサーバ本体のリセットや電源の切断が行われると初期化は中断されます。

次回再開時は中断したところから初期化が再開されますので、途中でリセットや切断を行っても初期化は継続されます。

初期化が完了するまでは RAID1 ロジカルドライブは、非冗長の状態となっています。初期化が完了すると、再度冗長性が確立されます。

初期化完了は RAID 管理ツールを使用してロジカルドライブ情報を表示させることにより確認できます。

- ・ GAM の ControllerView より Status が online であることを確認する。
(未完了の場合は Critical となります。)
- ・ ServerView RAID より Status が Operational であることを確認する。
(未完了の場合は Degraded となります。)

下記、「初期化の完了時間の目安について」をご参照のうえ、その時間を越えても初期化処理が完了していない場合は、弊社修理相談窓口までご連絡ください。

1.1.2 初期化の完了時間の目安について

ハードディスクドライブへのアクセスがない場合、初期化の所要時間は下記の表のようになります。

これらの時間はOSが稼動しているトータル時間数で、途中で電源が切断された場合などは含みません。

ハードディスクドライブへのアクセスと並行して初期化が実行された場合には、アクセスのない状態より長い時間を要する場合があります。

		無負荷時	高負荷時
初期化 処理時間	73GB	約 3 時間	約 12 時間
	147GB	約 6 時間	約 24 時間
	300GB	約 12 時間	約 48 時間

※高負荷時は常に高負荷のハードディスクアクセスをおこなった場合の完了時間を示します。

※上記はあくまでも目安でお客様の環境により完了時間は前後する場合があります。

1.2 リモートマネジメントコントローラ (iRMC) の設定について

iRMC 機能をご利用のお客様は、以下の点にご注意願います。

メインボード交換後の iRMC の設定はお客様作業となります。装置の修理においてメインボード交換が生じた場合、以下の情報をお客様にて再設定をお願いいたします。また、その他の設定情報に関しても正しいかご確認をお願いいたします。

・リモートマネジメントコントローラアップグレード(PG-RMCU1)「ライセンスキー」登録内容(ご購入の場合のみ)

注意

iRMC の設定情報を復元するために必ず装置に添付されている「環境設定シート」に設定内容を記録し、保管していただくとともに、装置添付の「Server Management Tools」による設定情報のバックアップを行ってください。

2 USB DVD/CD-ROM ドライブ (FMV-NCB52) から Windows 2000 Server SP4 適応済 CD-ROM を使って OS をインストールする場合の留意点

■留意点

USB CD ドライブから Microsoft Windows 2000 Server Service Pack 4 (SP4) 適用済 CD-ROM を使用し、OS のインストールを行うと、Windows 2000 のインストールを完了するための、再起動のタイミングで以下の STOP エラーが表示される場合があります。

STOP: 0x0000001E(0xC0000005、0xF3EC39F5、0x00000000、0x01010100)

KMODE_EXCEPTION_NOT_HANDLED

(現象の詳細は Microsoft 社 HP サポートオンライン: <http://support.microsoft.com/> に掲載されております。
「KB838417」を参照願います。)

この問題を回避するために、以下の手順に沿って OS のインストールを行ってください。

以下の手順を行わずに STOP エラーが表示された場合は、以下の手順に沿って OS の再インストールを行ってください。

■ServerStart を使用した OS インストール手順

1. USB CD ドライブから ServerStart を起動し、ユーザーズガイド「第 3 章 ServerStart による OS のインストール」に沿って OS インストールの設定を行います。
2. 【 Windows 2000 のインストールを開始する 】をクリックし、「ServerStart 自動インストールモード」より画面の指示に沿って各種 CD-ROM の入れ換えを行ってゆくと、最後に以下のメッセージボックスが表示されます。

システムが再起動します。
フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブから全てのディスクを取り出して下さい。
[OK]

このとき、**USB CD ドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、USB ケーブルをコネクタから抜いて、完全に USB CD ドライブをサーバからとりはずしてください。**

3. USB CD ドライブをとりはずしたのち、2.のメッセージボックスの[OK]ボタンをクリックすると、サーバは自動的に再起動します。

以降、OS のインストールが自動的に開始されます。

画面の指示に沿ってインストールを行ってください。

■手動での OS インストール手順

1. USB CD ドライブから、ユーザーズガイド「第 4 章 OS の手動インストール」に沿って OS インストール作業を行います。
2. OS インストール作業の最後に、以下のようなメッセージボックスが表示されます。

Windows 2000 セットアップ ウィザードの完了

Windows 2000 セットアップは完了しました。

ドライブに CD が挿入されている場合、取り除いてください。コンピュータを再起動するには、[完了]をクリックしてください。

[完了]

このとき、**USB CD ドライブのアクセスランプが消えていることを確認し、USB ケーブルをコネクタから抜いて、完全に USB CD ドライブをサーバからとりはずしてください。**

3. USB CD ドライブをとりはずしたのち、2.のメッセージボックスの[完了]ボタンをクリックすると、サーバは自動的に再起動します。

以降、ユーザーズガイドにしたがって、インストールを行ってください。

3 「PRIMERGY RX200 S3 ユーザーズガイド : B7FH-4351-01-00」 についての更新

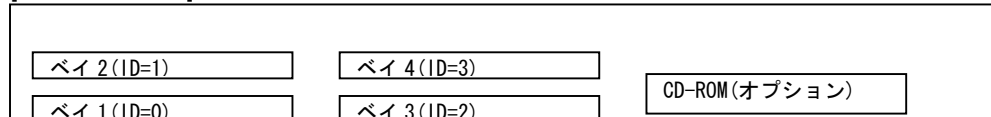
基本ドライブページ変換機構 (2.5 インチ内蔵ハードディスクユニット)

関連ページ

7 章「7.7.1 内蔵ハードディスクユニットの取り付け位置」 ■ 搭載順

内蔵 2.5 インチストレージベイのベイ番号と SAS-ID は次のとおりです。

[サーバ本体前面]



内蔵 2.5 インチハードディスクユニットは、ベイ 1→ベイ 2→ベイ 3→ベイ 4 の順に取り付けてください。

内蔵ハードディスクユニットの取り付け・取り外し手順

関連ページ

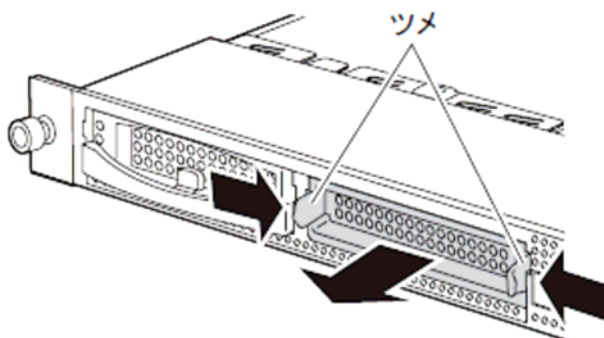
7 章「7.7.3 3.5 インチ内蔵ハードディスクユニットの取り付け手順」 (p. 260)

■ 内蔵ハードディスクユニットの取り付け手順

- 1 ラックドアを開けます。
→「1.4.1 ラックドアを開ける」(P. 33)
- 2 サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
→「1.4.3 電源を切る」(P. 37)
- 3 サーバ本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電します。

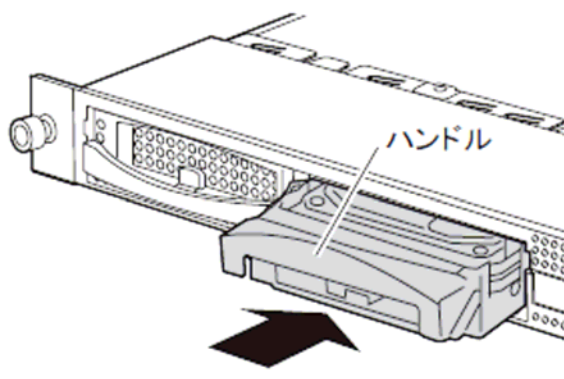
● 標準ストレージベイ (3.5 インチ) の場合

- 4 内蔵ハードディスクユニットを取り付けるベイから、ダミーユニットを取り外します。
内蔵ハードディスクユニットが搭載されていないベイには、ダミーユニットが取り付けられています。ダミーユニットの両側のツメを同時に内側に押しながら手前に引きます。

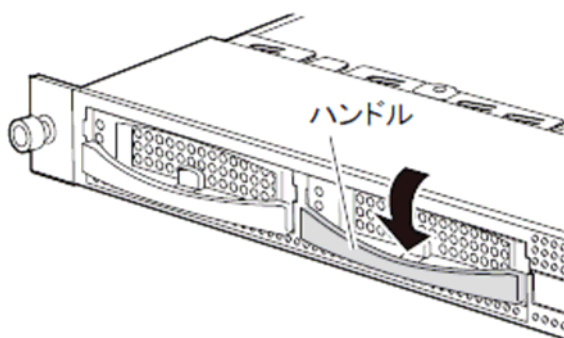


- 取り外したダミーユニットは、大切に保管しておいてください。

- 5 内蔵ハードディスクユニットをサーバ本体に取り付けます。
内蔵ハードディスクユニットのハンドルが上げられた状態で、ベイの奥まで差し込みます。

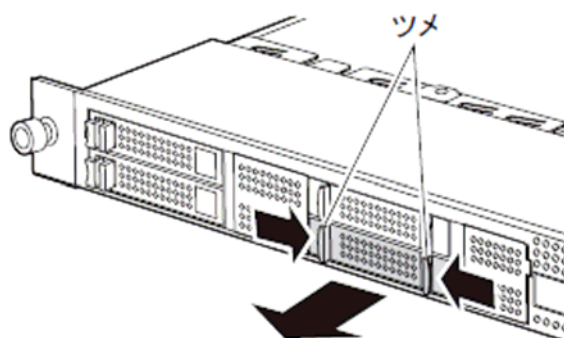


- 6 内蔵ハードディスクユニットのハンドルを、「カチッ」と音がするまで下げます。



● ドライブケージ変換機構を適用した場合(2.5インチ)

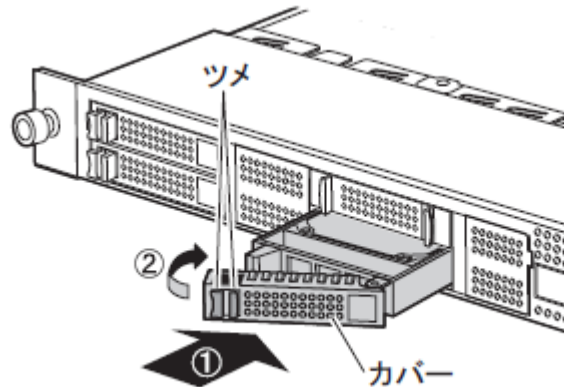
- 4 内蔵ハードディスクユニットを取り付けるベイから、ダミーユニットを取り外します。
内蔵ハードディスクユニットが搭載されていないベイには、ダミーユニットが取り付けられています。ダミーユニットの両側のツメを同時に内側に押しながら手前に引きます。



POINT

- ・ 取り外したダミーユニットは、大切に保管しておいてください。

- 5 内蔵ハードディスクユニットをサーバ本体に取り付けます。
内蔵ハードディスクユニットのレバーを開いた状態のまま、ベイの奥まで差し込みます。



- 6 レバーを閉じます。

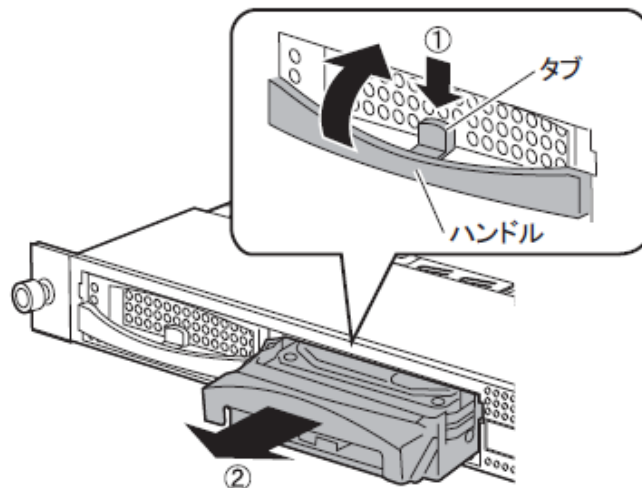
■ 内蔵ハードディスクユニットの取り外し手順

- 1 ラックドアを開けます。
→「1.4.1 ラックドアを開ける」(P. 33)
- 2 サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
→「1.4.3 電源を切る」(P. 37)
- 3 サーバ本体の金属部分に触れて、人体の静電気を放電します。

● 標準ストレージベイ(3.5インチ)の場合

- 4 内蔵ハードディスクユニットを取り外します。

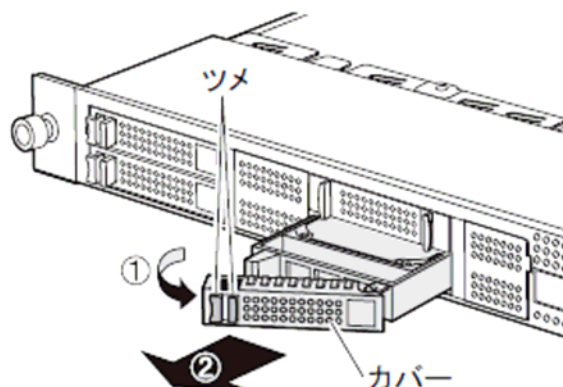
内蔵ハードディスクユニットの前面のタブを押しながらハンドルを上げて (①)、手前に引き出す (②)。そのとき、内蔵ハードディスクユニットに手を添え、両手で持って引き出してください。



- 5 新しい内蔵ハードディスクユニットまたはダミーユニットを取り付けます。

● ドライブケース変換機構を適用した場合 (2.5 インチ)

- 4 内蔵ハードディスクユニットを取り外します。
ツメを押しながら、カバーを開けて (①)、内蔵ハードディスクユニットを引き出します (②)。
内蔵ハードディスクユニットに手を添え、両手で持って引き出してください。



- 5 新しい内蔵ハードディスクユニットまたはダミーユニットを取り付けます。

8 章 「8.2.8 Advanced System Configuration サブメニュー」 (関連ページ 284)

追加

Advanced System Configuration サブメニューの[Limit CPUID Functions]と[CPU Halt Mode]の間に以下の項目が追加となります。

項目	設定値	説明
CPU Thermal Management	Enhanced (変更禁止)	CPUの温度制御に関する設定です。この項目はCPUの種類によっては表示されません。

追加

Advanced System Configuration サブメニューの[CPU Frequency (GHz)]と[Hyper-Threading]の間に以下の項目が追加となります。

項目	設定値	説明
Core Multi-Processing	Enabled (変更禁止)	Core Multi-Processing機能を有効/無効にする設定です。

A 本体仕様(関連ページ 340-342)

追加

本サーバの仕様は以下の通りです。

項目		機能・仕様			
Windows Server 2003 R2 インストールタイプ		PGR2033GS3	-	-	PGR2039GS3
Windows Server 2003 R2 アレイタイプ		-	PGR20337S3	PGR20334S3	-
CPU	標準	Xeon 5110 (1.60GHz/4MB)			Xeon 5148 (2.33GHz/4MB)
	変換	Xeon 5130/4MB Xeon 5160/4MB Xeon 5110/4MB Xeon E5310/2x4MB Xeon X5355/2x4MB			Xeon L5320/4MB
	マルチ数	1(最大2)			
	メモリ	1GB (512MB DDR2-667 FBD × 2 枚)			
メモリ	増設単位	512MB / 1GB / 2GB / 4GB × 2			
	最大容量	32GB (4GB DIMM × 8 スロット)			
ビデオ RAM 容量		1.7MB ※グラフィックスカードを搭載することにより VRAM 容量を拡張できます			
グラフィックス		VGA チップ: iRMC に内蔵 640 × 480、800 × 600、1024 × 768、1280 × 1024 表示色: 解像度、OS などによって異なる			
CD-ROM ドライブベイ		1 ベイ (オプション) 種類: 24 倍速 ATAPI CD-ROM ユニット/ DVD-RAM ユニット			
標準ストレージベイ		3.5"×2 ベイ、SAS、ホットプラグ			
標準ストレージベイ	標準	73.4GBx1	73.4GBx2	146.8GBx2	73.4GBx1
	増設単位	73.4GB (15krpm) /146.8GB (15krpm) /300GB (15krpm)			
	最大	600GB (300GB × 2)			
拡張スロ ット	標準	PCI-X スロット (64bit / 100MHz、Low Profile) × 1 PCI-X スロット (64bit / 133MHz、Full Height、Half length/LowProfile) × 1			
	変換	PCI-X スロット (64bit / 100MHz、Low Profile) × 1 PCI-Express x8 スロット (Full Height) × 1			
フロッピーディスク ドライブ		オプション (USB フロッピーディスクドライブ)			
インタフェース		LAN (1000BASE-T) × 2 (ベースボード標準搭載)、シリアル× 1、 パラレル× 1 (オプション)、キーボード、マウス、ディスプレイ、USB × 4			
キーボード/マウス		オプション			
外形寸法 (単位: mm)		横幅 430 (482) × 奥行き 730 (774) × 高さ 43.5 (占有ユニット 1U) () 内は突起物を含めた寸法			
質量		最大約 20kg			
内蔵時計精度		誤差 2 ~ 3 分/月			
消費電力		630W/2268kJ/h			
電源		AC100V (50/60Hz) /二極接地型			
電源ユニット		標準で 1 台、最大 2 台 (冗長電源オプション)			
冗長ファン		標準搭載			
エネルギー消費効率		「● エネルギー消費効率」参照			
サポート OS		「● サポート OS」参照			

本サーバの仕様は、改善のため予告なしに変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

● エネルギー消費効率

エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により、測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

Xeon プロセッサ 5110: c 区分、0.00993
Xeon プロセッサ 5130: c 区分、0.00476
Xeon プロセッサ 5148: c 区分、0.00685
Xeon プロセッサ 5160: c 区分、0.00714
Xeon プロセッサ L5320: c 区分、0.0046
Xeon プロセッサ E5310: c 区分、0.0056
Xeon プロセッサ X5355: c 区分、0.0035

● サポート OS

本サーバでのサポート OS は以下のとおりです。

- ・ Windows Server 2003, Standard Edition
- ・ Windows Server 2003, Enterprise Edition
- ・ Windows Server 2003, Standard x64 Edition
- ・ Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition
- ・ Windows Server 2003 R2, Standard Edition
- ・ Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition
- ・ Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition
- ・ Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition
- ・ Windows 2000 Server
- ・ Windows 2000 Advanced Server
- ・ Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86) *1
- ・ Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T) *1
- ・ Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for x86) *1
- ・ Red Hat Enterprise Linux AS (v.4 for EM64T) *1
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86) *1
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64) *1

*1: 本 OS につきましては、以下の URL にて Linux サポート版数一覧表をご確認のうえ、ご使用ください。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/software/linux>

本サーバで使用できる CPU オプション

関連ページ

7 章「7.3.2 取り付け可能な CPU と留意事項」(p. 240)

付録「B.1 CPU の仕様」(p. 344)

追加

以下の CPU が追加になります。

本型名の CPU は、ページ 10 の本体に対してのみ適用可能です。

表：CPU 仕様

項目	機能・仕様						
品名	Xeon プロセッサ 5110 (1.60GHz/4MB) -2	Xeon プロセッサ 5130 (2GHz/4MB)-2	Xeon プロセッサ 5148 (2.33GHz/4MB) -2	Xeon プロセッサ 5160 (3GHz/4MB)-2	Xeon プロセッサ E5310 (1.60GHz/2×4MB)-2	Xeon プロセッサ L5320 (1.86GHz/2×4MB)-2	Xeon プロセッサ X5355 (2.66GHz/2×4MB)-2
型名	PG-FG35R	PG-FG35S	PG-FG35V	PG-FG35T	PG-FG453	PG-FG454	PG-FG455
動作クロック周波数	1.60GHz	2GHz	2.33GHz	3GHz	1.60GHz	1.86GHz	2.66GHz
内蔵 2 次キャッシュサイズ	4MB				2×4MB		
FSB	1066MHz	1333MHz			1066MHz		1333MHz

本サーバで使用できるメモリオプション

関連ページ

7 章「7.4.2 取り付け可能なメモリと留意事項」(p. 245)

付録「B.2 メモリの仕様」(p. 344)

本製品で使用できるメモリオプションは以下のとおりです。

表：メモリ仕様

項目	機能・仕様			
品名	拡張 RAM モジュール-1GB	拡張 RAM モジュール-2GB	拡張 RAM モジュール-4GB	拡張 RAM モジュール-8GB
型名	PG-RM1CE	PG-RM2CE	PG-RM4CE	PG-RM8CE
構成	512MB DDR2 667 FBD × 2	1GB DDR2 667 FBD × 2	2GB DDR2 667 FBD × 2	4GB DDR2 667 FBD × 2
容量	1GB	2GB	4GB	8GB
動作クロック周波数	667MHz			
ピン数	240 ピン			

本サーバで利用できるハードディスクユニットオプション

関連ページ

7 章「7.7.2 取り付け可能な内蔵ハードディスクユニット」(p. 260)

付録「B.4 内蔵ハードディスクユニットの仕様」(p. 346)

本製品で利用できるハードディスクユニットオプションは以下のとおりです。

表：内蔵ハードディスクユニット仕様

項目	機能・仕様					
型名	PG-HDB75A	PG-HDB45A	PG-HDB35A	PG-HDD71A	PG-HDD75A	PG-HDD41A
インタフェース	SAS (Serial Attached SCSI)					
記憶媒体	3.5 インチハードディスク			2.5 インチハードディスク		
記憶容量 [注 1]	73.4GB	146.8GB	300GB	73.4GB	146.8GB	
最大データ転送速度	3Gbit/s					
平均回転待ち時間	2.0ms			3.0ms		
回転数	15,000rpm			10,000rpm	15,000rpm	10,000rpm
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 [注 2]	0.16W/GB (区分 e)	0.08W/GB (区分 f)	0.04W/GB (f 区分)	0.1W/GB (区分 e)	0.08W/GB (e 区分)	0.05W/GB (e 区分)
外形寸法 (W × D × H)	101.6mm × 146.0mm × 25.4mm			70.1mm × 100.45mm × 15.0mm		
質量 [注 3]	0.8kg			0.22kg		

4 最新の環境設定シートについて

ドキュメント&ツール CD に格納されている電子データの環境設定シートは最新ではありません。最新情報は、紙添付の環境設定シート、および、下記の URL にて提供されています。環境設定シートご記入の際は、これらの最新の環境設定シートをご使用くださいますようお願いいたします。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/>

5 オプション製品の増設についての補足事項

PRIMERGY を安定してご使用いただくため、オプション製品（内蔵/外付けオプションおよび USB 機器等）の増設時は、システム構成図に記載されている製品を使用ください。弊社指定以外のオプション製品をご使用いただく場合、弊社において、サーバ製品の動作保証は一切しかねますので、ご注意願います。

6 リモートマネジメントコントローラ (iRMC) のファームウェアバージョンについて

本製品に搭載の iRMC ファームウェアは、そのバージョン (V1.65A 以前と V.66A 以降) に応じて若干の相違点がございしますので、ご留意願います。

【主な相違点】

- ・ 操作画面左のメニューを、一覧表示からツリー表示に変更しました。
- ・ 一部のメニュー名、画面名、ボタン名を変更しました。

変更例	V1.65A 以前	V1.66A 以降
メニュー名	User Management メニュー	iRMC User メニュー
画面名	System Event Log 画面	System Event Log Content 画面
ボタン名	toggle (System Information 画面の Identify LED ボタン)	toggle on/off

- ・ 一部の機能を、別画面に移動しました。

変更例	V1.65A 以前	V1.66A 以降
Error Halt Settings 機能	Server Management Information 画面	Power On/Off 画面

- ・ VNC Ports、Remote Storage Ports の Port 番号を設定可能としました。
- ・ CPU のステータスアイコンを表示可能としました。
- ・ System Event Log の表示内容をログのエラーレベルによって選択可としました。



iRMC のバージョンは以下の何れかの方法で確認出来ます。

- ・ BIOS 設定画面より確認する方法

サーバ起動時に BIOS の設定画面を起動し、「F1」キーを押下して Info 画面を表示させます。

例) iRMC Firmware 001.66A

- ・ iRMC Web インタフェースより確認する方法

iRMC Information 画面の“Firmware version”に表示されます。

例) Firmware version 1.66A

7 リモートマネジメントコントローラ (iRMC) の操作マニュアルについて

iRMC の操作マニュアルは iRMC のバージョンにより 2 種類用意されています。

お使いのバージョンに応じて、適切なマニュアルを参照してください。

(それぞれのマニュアルは、PRIMERGY ドキュメント&ツール CD の [CD-ROM ドライブ]:¥MANUAL¥COMMON フォルダに格納されています)

- ・ iRMC のバージョンが V1.65A 以前の場合

ServerView V4.20 ユーザーズガイド (B7FH-4261-01) の第 8 章

“リモートマネジメントコントローラの使用”

を参照願います。

- ・ iRMC のバージョンが V1.66A 以降の場合

リモートマネジメントコントローラ ユーザーズガイド (B7FH-5251-01)

を参照願います。

8 リモートマネジメントコントローラ (iRMC) V1.66A の未サポート事項について

V1.66A にて追加された以下のメニューについては、未サポートとなっておりますのでご注意ください。

リモートマネジメントコントローラ ユーザーズガイド (B7FH-5251-01)

- ・ 4.2.3 Save iRMC S2 Firmware Settings 全般
- ・ 4.2.4 Certificate Upload の下記機能
 - View Certificate
 - Default Certificate
 - Certificate and private key upload from file
- ・ 4.9.1 User Management -> ユーザ情報の変更/ユーザ情報の新規作成の下記機能
 - Configure User Accounts
 - Configure iRMC S2 settings
 - Video Redirection enabled
 - Remote Storage enabled
- ・ 4.9.2 Directory Service Configuration 全般

9 最新版のダウンロードについて(ご参考)

各種ドライバやBIOS、ファームウェアの最新モジュールを以下のダウンロードサイトにて提供しております。
システム安定稼働のため、常に最新モジュールを適用していただくことを推奨します。

＜ダウンロードサイト＞ <http://primeserver.fujitsu.com/primergy/bios/>

以上